「つまらないものですが」考[1)]
―実態調査と日本語教科書との比較から―

清　ルミ

A Consideration of the Use of the Phrase '*Tsumaranaimonodesuga*'
— by Comparison of the Contents of Japanese Textbooks and the Results of Actual Surveys —

SEI Rumi

This study aims to verify whether actual Japanese way of speaking is reflected in Japanese language textbooks, which are usually considered the model of speech and behavior for foreign students. Expression of understatement could be said to be typical aspect of Japanese speech patterns. In this study I focused on the expression "tumaranai-monodesuga". Scenes involving the giving gifts were analyzed and collated from Japanese language textbooks and compared with the results of surveys held in Shizuoka Prefecture. Through this comparative study I verified the validity of the following three theories. First theory is that Japanese people actually use phrases expressing deference or humility when giving gifts. Second theory is that "tsumaranaimon-odesuga" is one of the most typical phrases Japanese people use when giving gifts. Third theory is that the phrases introduced in Japanese language textbooks to describe scenes giving gifts are actually the phrases expressing humility that Japanese most often use. Comparative study showed that while the first theory was proven as valid, the second and third theories were not.

キーワード: つまらないものですが、日本的コミュニケーション、謙遜表現、日本語教科書、実証

1.　はじめに

筆者は、日本語非母語話者を対象に日本語を教えるという行為は、日本の言語文化を教えることであり、教材作成者も教授者も、日本の言語文化、日本人のコミュニケーションスタイルに敏感でなければならないと考える。

日本語教科書で提出される会話例や文例は、日本人が最も一般的にとる言語行動が提示され、日本人の多くが使用する代表的表現であると解釈する学習者は多い。とりわけ海外における学習者の場合、その傾向は大きくなる。

日本人のコミュニケーションスタイルの典型として筆頭にあげられるものに「遠慮」がある。石井（1984）は、日本人の対人コミュニケーションの伝統的な規範として「遠慮」と「察し」をあげている。「遠慮」は場面や状況によって「謙遜」として表出する。北出（1993）は、「遠慮・察し」の日本的コミュニケーションがアメリカ人に機能しない代表例として、贈答場面における「つまらないものですが…」に言及している。

そこで本研究では、「謙遜」表現の提出が予想され得る場面の中から贈答場面を選択し、日本語教科書で提出されている表現と実態調査の結果を、謙遜表現の代表例として扱われる「つまらないものですが」という表現を軸に比較考察する。

2.　研究目的

本稿は、教科書に提出される規範はどうあるべきかという問題と、教授者が規範をどうとらえ教えるべきかという問題に関して考察研究を開始する第一段階として、実際に日本語教科書で提出されている文例が、日本人の言語行動の現実を反映しているものかどうか検証を試みるものである。

本稿で扱う検証例として、謙遜表現のひとつである「つまらないものですが」という表現を取り上げる。この表現の教科書での扱われ方を分析したものと、現実生活での実態調査の結果を比較し、教科書での扱われ方が現実の言語生活を反映しているかどうか考察する。

本研究に際し、次のような仮説を立てた。

〔仮説 1〕　日本人は、人に物を贈る際、謙遜表現を使用する。

〔仮説 2〕「つまらないものですが」は日本人が実際に物を贈る時に使用する代表的表現である。

〔仮説 3〕日本語教科書の贈答場面において、贈り物をする側の言語表現は、現実に日本人が最もよく使用する謙遜表現が提出されている。

以上の 3 つの仮説の妥当性を検証することを本稿の目的とする。

3. 考察方法

3–1: 実態調査

実態調査は次の 5 種類である。

① 静岡県出身で県内在住の大学生・社会人対象の贈答場面ロールプレイ調査

② 静岡県 3 ブロック(東部、中部、西部)各ブロック出身・在住の御中元贈答者対象街頭インタビュー調査

③ 静岡県東部における贈答を多く受ける家庭の御中元実態調査

④ 静岡県東部における贈答を多く受ける事業所と家庭の手土産実態調査

⑤ 静岡県東部在住で日本語を自然習得した外国人の贈答場面ロールプレイ調査

なお静岡県は、マーケティングリサーチ業界において、新商品のテスト販売や市場調査に最も適した県であるといわれている。人口密度、平均収入等が全国平均に近いこと、地理的に日本の中心部に位置すること、太平洋沿いに南東に長く北にも長いため、東部、中部、西部各ブロックがそれぞれ関東寄り、山間部寄り、関西寄りの特色を有すること、などがその理由である。従って、本調査も調査対象を静岡県下とした。

3–2: 調査方法

① 1998 年 5 月に、静岡県内にある大学と社会人対象の市民大学のクラスにおいて、恩師に贈答する場面を設定しロールプレイを実施した。プレイ

は各自 3 回、贈答品を御中元、手土産、旅土産と 3 つ種類を変えて実施。渡す品物は本人に自由に想定させた。各ロールプレイ終了直後に、渡す際に使用した表現を渡された側が書き取った。調査結果の集計には、静岡県出身で静岡県内在住者のもののみを使用した。

② 1998 年 7 月に、東部、中部、西部の 3 ブロックで、デパートで御中元を購入し宅配を依頼せずに持ち帰る客を掴まえ、その場でインタビュー調査を行なった。まず出身地を確認、調査ブロック出身者のみ調査対象とした。調査対象者には、年齢層、贈答の品種、渡す相手、何といって渡すか(調査員を渡す相手とみなして簡単なロールプレイをしてもらった)を尋ねた。インタビュー直後、調査員が調査用紙に回答を記入した。それぞれのブロック出身者各 100 名、計 300 名の回答を集計した。

　調査員は日本語教授法を履修している学生 5 名と筆者。全員が 3 ブロックすべてを調査担当した。調査スタート時、試験的に各調査員が 3 名ずつインタビューし一旦集合。調査上の問題点を出し合い、同一条件下で調査ができるよう合意をとってから調査を開始した。

③ 1998 年 7 月～8 月に、東部地区に住む、贈答を受ける事の多い家庭の主婦 5 名に御中元の調査依頼をした。手渡された時、相手が使用した表現、品種、もらった相手の年齢層と関係をノートに記述してもらった。

④ 1998 年 7 月～8 月に、東部地区で手土産を受ける事の多い事業所 5 箇所と 5 家庭に、手土産の調査依頼をした。手渡された時、相手が使用した表現、品種、相手の年齢と関係を記述してもらった。

⑤ 1999 年 8 月に、東部地区に住む外国人で日本語教育機関で日本語を学習した経験がなく自然習得した人を対象に、恩師に贈答するロールプレイを 2 回(手土産と旅土産の 2 種類。品物は各自自由に想定)ずつしてもらい、終了後、使用した表現を書き取った。御中元を贈る習慣はないと判断し、御中元の調査は除いた。ロールプレイ終了後、「つまらないものですが」という表現を知っているかどうか尋ね、返答も書き取った。調査員は筆者 1 名。被験者は 28 名。日本在住年数は 4 年から 18 年。語学教師、会社員、自営業、主婦など。国籍は、アメリカ 10、台湾 4、インド 3、イギリス 2、カナダ 2、オーストラリア 2、ニュージーランド 2、

タイ 1、フィリピン 1、中国 1。男 18 名 女 10 名。

3–2: 教科書分析[2)]

1977 年から 1997 年までに出版された代表的な教科書を対象レベルと無関係に調べ、贈答場面を設定しているものを抽出した。その結果、日本語教科書は 20 種 21 場面、日本語解説書は 6 種類抽出できた。各教材において贈答する側が使用した表現、場面、贈答品の種類、表現の解説などの項目について分析を行なった。

4. 結果と考察

3–1 の実態調査の結果は表 ① から ⑤ までのように得られた。

① の調査結果から

中元歳暮の贈答において「いつもお世話になっております」という表現の使用率が非常に高い。大学生と社会人を比較すると、使用表現の差が出たのは、中元歳暮と手土産の場合である。この 2 種類に関して、社会人のほうが使用表現のバラエティに富み、「心ばかりのもの」「ほんの気持ち」「ありきたりのもの」「つまらないもの」などの謙遜表現が使われている。大学生のほうは「これ、どうぞ」という直接表現の使用が多数を占める。社会人において年齢層別に使用表現の差を出してみたが、年齢による割合の傾向は特にみられなかったため、ここには掲載していない。社会人の謙遜表現使用率は、中元歳暮で 40.2%、手土産で 31% で、いずれも比較的高い。

旅土産では目立った差はなく、「これ、〜ですけど、どうぞ」という明示的表現が年代に関係なく多い事が明らかである。

「つまらないものですが」という表現は、この調査では中元歳暮と手土産に各 1 ずつ使用されたのみであった。使用者は 40 代女性で同一人物である。

② の調査結果から

各ブロックごとの大きな差はみられない。いずれのブロックにおいても「いつもお世話になっております」という表現の使用が 70% 以上を占めた。年齢層、品物、相手別に使用表現の差を出してみたが、特に目立った傾向

はみられなかったためここには掲載しない。また、使用表現の中から謙遜表現を抽出すると、「心ばかり」「ほんの気持ち」「変わりばえしない」「こんなもので失礼」「つまらないもの」の 6 種類が使用され、300 例中 28 例で、9.3% の使用率である。季節の贈答品の場合、謙遜表現は使用されるが多くはないことがわかる。

「つまらないものですが」は東部に 1 例のみで、50 代男性であった。

③ の調査結果から

83 件の実例中、「いつもお世話になっております」の使用は 53 件あり、使用率約 64% と高い。謙遜表現は「心ばかり」「ほんの気持ち」「いつものもの」「かわりばえしない」「たいしたものじゃない」などが使用され、20.7% の使用率であった。

「つまらないものですが」の使用は 1 件もみられない。

④ の調査結果から

調査依頼期間が盆休暇や夏休みを含んでいたため、事業所においては予想より件数は少なく 19 件だった。逆に、家庭においては休暇中の手土産等の件数は多く 32 件だった。

計 51 件の手土産の場合の実例では、「これ、どうぞ」や「～ですけど、どうぞ」といった明示的表現の使用が目立つ。謙遜表現では「ありふれたもの」「ありきたりのもの」が 2 件使用されたのみで、使用率は 0.4% である。

「つまらないものですが」の使用は 1 件もみられない。

⑤ の調査結果から

自然習得者の場合、手土産、旅土産ともに明示的表現の使用率が高い。謙遜表現の使用は、手土産で「お口に合うかどうか分かりませんが」が 1 件、旅土産で「これ、少しですが」が 1 件であった。「つまらないものですが」は 1 件もみられなかった。ロールプレイ終了後、「つまらないものですが」という表現を知っているかどうか尋ねたが、全員が「知っている」と答え、「きいたことがある」「みたことがある」と付け加えた人が 17 名いた。うち「みたことがある」と付け加えた 15 名は、独習用に日本語教科書や解説書等を購入した経験を有し、購入した教材や新聞等で「つまらない

ものですが」が紹介されていたことに触れた。「あまり日本人が使っているのをきいたことがない」と言った人が 10 名、「つまらないものですがを使えば良かった」と述べた人が 3 名いた。また、「こういう場合は『つまらないものですが』を使用した方がいいか」と筆者に尋ねた人が 6 名いた。

①～⑤ の結果からの考察

① ② ③ に共通してみられる傾向として、御中元のように特定の相手に渡す季節の贈答品の場合、「お世話になっております」という表現が最も妥当なものとして選択されていることが明らかになった。

② のインタビュー調査、③ ④ の実態調査と比べ、① のロールプレイ調査の謙遜表現の使用率が社会人の場合、中元、手土産いずれも高かった。これは、① でロールプレイの条件として恩師に渡すという設定をしたことで、実態調査より謙遜表現使用率が高くなったためではないかと推察する。また、① において大学生の場合、3 種類いずれの贈答品の場合も謙遜表現の使用がみられず、明示的表現が使用されていた。これは、まだ社会人でないため中元歳暮の贈答や手土産を恩師に渡すような機会が現実にないためではないかと思われる。

③ ④ の実態調査をみると、中元の場合は、謙遜表現が 5 人に 1 人の割合で使用されており、手土産の場合の謙遜表現使用率はわずかに 0.4% であることが明らかになった。むしろ手土産の場合は明示表現が多用されているといえる。

⑤ において、日本語自然習得者は、④ の日本人の実態調査と類似した結果が得られた。日本語教育機関での学習を経ない分、日本語教材や日本語教授者の刷り込みがなく、日常生活において母語発話者との接触を通して適切な表現を獲得していったため、日本人に近い言語使用がなされているのではないかと思われる。従って知識として「つまらないものですが」を知ってはいてもロールプレイでは使用されなかったのではないかと思われる。

しかしながら、28 名全員が「つまらないものですが」を知っており、うち 15 名が教科書等でみたことがあると答えたことから、残り 13 名はテレ

ビや新聞雑誌等を含む日常生活において「つまらないものですが」を見聞したという可能性も考えられる。

また、3 名が「つまらないものですがを使えば良かった」と述べ、6 名が「こういう場合は『つまらないものですが』を使用した方がいいか」と筆者に尋ねたのは、自然習得の結果として無意識に表出した表現と知識として知っていた表現との間で葛藤を起こし不安になったためではないかと思われる。

使用に関しては、①②③④⑤のいずれの調査においても、「つまらないものですが」はごく少数しか使用例が得られなかった。本調査に限っていえば、中元歳暮、手土産、旅土産のいずれの場合も「つまらないものですが」は実際にはあまり使用されていないと結論づけられる。

3–3　の教科書分析結果は表⑥の（1）から（3）までのように得られた。

贈答場面において「つまらないものですが」あるいは類似謙遜表現が提出されていた教科書は 14 種類 15 場面あった。表⑥の（1）はその分類表である。

解説書等において「つまらないものですが」が提出されていたものは 6 種類あった。表⑥の（2）はその分類である。

贈答場面において「つまらないものですが」等の謙遜表現が提出されていない教科書は 7 種類あった。表⑥の（3）はその分類表である。

表⑥の（1）について

「つまらないものですが」が提出された 14 の教科書のうち 10 が初級用、3 が中級用、1 が上級用である。上級を除く 13 の教科書は、いずれも教育機関で長期的に学習可能な学習者を対象によく使用される、いわゆるコースブックである。とりわけ海外で英語を媒介語として日本語学習する初級者であれば、この表に含まれた著名な教科書のいずれかで学習する可能性が高い。[3] 従って、「つまらないものですが」の学習率は高いことが推測しうる。

15 場面中、贈答品別にみると手土産 7、旅土産 2、歳暮 1、誕生祝い 1

で、渡すものを特定せずに解説したものは 4 あった。贈答品を渡す相手は上司、教師、大家といった目上の設定が 7、日本人同士で上下関係等の特定なしが 8 であった。また、外国人が日本人に対して贈答するという設定が 5 あった。この表から、「つまらないものですが」は手土産や旅土産を渡す際に特に多く使用されるが、贈答品の種類を問わず汎用性が高い表現であると解釈しうる。使用する相手も必ずしも目上とは限らず頻繁に使用されるものであり、外国人にも日本人に対して使用を促すものと受け取れる。

解説をみると、“most commonly used”（筑波ランゲージグループ 1992、p. 75）、“the most common expressions”（名古屋大学日本語教育研究グループ 1983、p. 154）、“one of the most common expressions”（水谷・水谷 1977、p. 70）、“frequently used”（アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター 1987、p. 226）、といった説明が多くみられる。これらの解説は学習者に「つまらないものですが」の使用を促進するものとして説得力をもつものであろう。

⑥ の（2）について

6 種類の解説書をみると、「つまらないものですが」という表現は、贈答相手・贈答品に関わらず、人に物を贈る際使用される日本人の謙遜・卑下の表現であるという説明が多い。「つまらないものですが」が章立ての題として 2 つの解説書で使用されており、日本人の言語行動のシンボリックな表現として目を引かせる役割を担っている。

⑥ の（3）について

贈答場面をみると、生徒が教師に、外国人が大家に、という上下関係を設定した 2 例をのぞくと、他は日本人が外国人に、あるいは外国人が日本人にという場面設定になっている。贈答品は旅土産と手土産が各 3、引っ越しそば 1、餅 1 となっている。提出された表現は、ほとんどが「これ、どうぞ」といった明示的表現で、謙遜表現を含まない。

この 7 種類の教科書の中には、漫画で書かれたものが 2、学習時間の限られた入門者向けが 2 みられ、サバイバル性の強い教材が多いといえる。この特色は、対人関係設定が日本人が外国人に、または外国人が日本人に

となっていて平明な日本語表現の使用が許容されやすいこと、それゆえに明示的表現を使用しているという点からも裏付けられる。

⑥ の（1）～（3）から

日本語教科書における贈答場面の分析と解説書の記述からは、次のような理解が導かれる。「日本人が贈答場面において最もよく使用する表現は『つまらないものですが』であり、これは日本人の謙遜や卑下による丁寧さを表している。贈答品や相手に関わらずこの表現が使用されることが多い。ただし、日本語学習に時間の制限がある場合は、サバイバルレベルとして、『これ、どうぞ』といった明示的表現を使用してもかまわない。」

5.　結論

本稿の目的は 3 つの仮説の妥当性を検証することであった。

〔仮説 1〕　日本人は、人に物を贈る際、謙遜表現を使用する。

実態調査 ① ② ③ ④ の結果から、仮説 1 の妥当性は認められた。

〔仮説 2〕「つまらないものですが」は、日本人が実際ものを贈る時に使用する代表的表現である。

実態調査 ① ② ③ ④ ⑤ のいずれにおいても、「つまらないものですが」の使用率は極めて低かった。贈答品により使用される表現は異なり、季節の贈答品では「いつもお世話になっております」の使用率が高かった。また手土産の場合は「これ、～ですがどうぞ」という明示的表現の使用率が高かった。従って仮説 2 の、「つまらないものですが」は代表的表現であるという部分の妥当性は認められない。

しかしながら、①～⑤ の結果からの考察で述べたように、自然習得の外国人のうち教科書等の購入経験を有しないにもかかわらず「つまらないものですが」を知っていた人が 13 名いたことは、日常生活の中で日本人が使用しているのを見聞した可能性があると解釈し得る。従って、仮説 2 の「つまらないものですが」は日本人が実際ものを贈る時に使用するという部

分に関しては、部分的に妥当である可能性も見出せる。

〔仮説 3〕 日本語教科書の贈答場面において、贈り物をする側の言語表現は、現実に日本人が最もよく使用する謙遜表現が提出されている。

実態調査から、御中元の場合、② で 9.3% が、③ で 5 人に 1 人の割合で謙遜表現の使用がみられ、手土産の場合、④ で 0.4% の割合で謙遜表現の使用がみられた。使用された表現は御中元では、② において「心ばかり」「ほんの気持ち」「変わりばえしない」「こんなもので失礼」「つまらないもの」の 6 種類が、③ においては「心ばかり」「ほんの気持ち」「いつものもの」「かわりばえしない」「たいしたものじゃない」などが使用された。手土産の場合、謙遜表現より明示的表現の方が圧倒的に多く使用されていた。

一方、日本語教科書において提出された表現の分析結果では「つまらないものですが」を代表的表現として提出する教科書・解説書が多かった。また、実態調査において謙遜表現の使用がほとんどなされず明示的表現が多く使用された手土産の場合においても、教科書は「つまらないものですが」が提出されていた。従って、仮説 3 の妥当性は認められない。

6. おわりに

本研究は、教科書における提出文例が実際の日本人の言語行動を反映したものかどうかを検証するものであった。結論としては、「謙遜する」という言語行動を導入するということ自体については反映されていたが、提出されている表現は必ずしも代表的なものとは言えなかった。むしろ、シンボリックに提出され紹介されることが多い「つまらないものですが」は、今回の実態調査では極めて使用率が低いことも明らかになった。

本稿の仮説検証は、無作為抽出によるものではなく、静岡県下において偶発的に被験者になった人を対象にした事例研究にすぎない。しかしながら、今回の実態調査結果から、日本人の贈答場面における謙遜表現の使用に関して、いくつかの傾向は見出すことができた。「つまらないものですが」を提出する際は、その使用場面、贈答の種類、相手などを限定する説

明の必要性が窺えた。また、贈答場面において実際に日本人が使用している謙遜表現が必ずしも教科書に導入されていないことも浮き彫りになった。さらに、贈答品によっては、日本人の「謙遜する」という規範が機能せず、現実には明示的に伝達しているという可能性も見出せた。

実態調査と教科書のズレは、時代による変化か、日本人自身が日本人のコミュニケーションスタイルの規範に過剰反応した結果か。他の言語行動に関する研究を重ね、考察を深めることを今後の課題にしたい。

また、本稿は日本語教科書における謙遜表現の用例と実態調査を比較分析したものであるが、今後、日本的コミュニケーションが他国においてどう機能するのかを考察する研究や、日本的コミュニケーションの問題点の研究等にもつなげ、考察を深めていきたい。

注

1）　本稿は平成 11 年度日本語教育学会春季大会（5 月 22 日、23 日、於麗澤大学）において同題で口頭発表したもの（『平成 11 年度日本語教育学会春季大会予稿集』PP. 113–118）に新たな調査結果を加えて論点を拡大し、修正したものである。

2）　参考文献を参照。

3）　国際交流基金日本語国際センター（1993）『海外の日本語教育の現状 日本語教育機関調査 1993 年概要』p. 18–20 を参照。

参考文献

北出亮（1993）「日本人の対人関係とコミュニケーション」橋本満弘・石井敏　編『日本人のコミュニケーション』（頁）桐原書店。

遠山淳（1993）「日本文化とコミュニケーション」橋本満弘・石井敏　編『日本人のコミュニケーション』（3–22 頁）桐原書店。

ハウエル、W.S.・久米昭元（1992）『感性のコミュニケーション――対人融和のダイナミズムを探る』大修館書店。

ピッツィコーニ、B.（1997）『待遇表現から見た日本語教科書』くろしお出版。

古田暁　監修、石井敏・岡部朗一・久米昭元（1987）『異文化コミュニケーション［改訂版］』有斐閣。

古田暁・石井敏・岡部朗一・平井一弘・久米昭元（2001）『異文化コミュニケーションキーワード　新版』有斐閣。

Brown, P., & Levinson, S.（1987）. *Politeness*. Cambridge: Cambridge University Press.

Ishii, S.（1984）. Enryo-Sasshi Communication: A Key to Understanding Japanese Interpersonal Relations. *Cross Currents*, p. 2.

［日本語教科書類: 五十音順］

アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（1987） *An Introduction to Advanced Spoken Japanese*. アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター。

氏家研一（1992） ビデオ講座日本語 『日常生活にみる日本の文化』東京書籍。

ケリー、ポール・カーティス、エリー（1990）『ケリーさんのすれちがい 100 』三省堂。

国際学友会日本語学校（1990）『留学生の日本語会話』国際学友会日本語学校。

国際交流基金（1984）『ヤンさんと日本の人々』国際交流基金。

佐々木瑞枝（1997）『日本語のイディオム 50』北星堂。

Jorden, E. H., & Noda, M.（1987–1990） *Japanese, the Spoken Language*（Part 2）. 講談社インターナショナル。

友田多香子・メン、B.（1996） *Interactive Japanese*. 講談社インターナショナル。

茅野直子ほか（1992） *Communicative Japanese for Time Pressed People*. 荒竹出版。

TOP ランゲージサービス（1993）『実用ビジネス日本語』アルク。

筑波ランゲージグループ（1992） *Situational Functional Japanese*. 凡人社。

Nagatomo, K., & Stein, M.（1995）. Do-it-yourself *Japanese through Comics*. 講談社インターナショナル。

名柄由ほか（1990） *Japanese for Everyone*. 学習研究社。

名古屋大学日本語教育研究グループ（1983） *A Course in Modern Japanese*（2）. 名古屋大学出版会。

日米会話学院（1987）『日本語でビジネス会話 中級編』日米会話学院。

日本語教育センター（1989）『横山さんの日本語 （6）』講談社。

パキラハウス（1990）『ちょっとしたものの言い方』講談社。

長谷川勝行（1998）『日本人の法則』ヤック企画。

文化外国語専門学校（1989）『文化初級日本語 II』凡人社。

文化庁文化部国語課（1983）『中国からの帰国者のための生活日本語 II』文化庁文化部国語課。

ペガサスランゲージサービス（1987） *Basic Functional Japanese*. ジャパンタイムズ。

McBride, H.（1991）. *Kimono*（2）. Australia: CIS Education.

三浦昭・マグロイン花岡直美（1994） *An Integrated Approach to Intermediate Japanese*. ジャパンタイムズ。

水谷修・水谷信子（1977）　*An Introduction to Modern Japanese*.　ジャパンタイムズ。

――――（1987）　*How to be Polite in Japanese*.　ジャパンタイムズ。

Young, J., & Nakajima, O.K.（1985）.　*Learn Japanese*.　Honolulu: University of Hawaii Press.

調査結果

① 大学生と社会人　ロールプレイ結果

	大学生 88 名の意識 （21 歳から 23 歳）	社会人 53 名の意識 （30 代から 70 代）
中元・歳暮	「これ、～ですが、どうぞ」32 「お世話になっております」30 「これ、お口にあうといいですが」26	「いつもお世話になっております」30 「心ばかりのものですが」14 「ほんの気持ち（おしるし）ですが」8 「つまらないものですが」1
手土産	「あの、これ、どうぞ」61 「～ですけど、どうぞ」27	「これ、～ですけど、どうぞ」25 「ありきたりのものですがどうぞ」20 「お好きだといいですけど」4 「おいしいから、どうぞ」3 「つまらないものですが」1
旅土産	「これ、～ですけど、どうぞ」74 「気に入ってもらえるといいですけど」14	「これ、～ですけど、どうぞ」46 「お気に召すかどうか、～です」7

② 静岡県 3 ブロック調査結果―御中元を渡す

（1） 内分け

調査対象者（300 名）の属性		東部 100 名	中部 100 名	西部 100 名
男女比	男	12	9	8
	女	88	91	92
年齢	20 代	13	5	5
	30 代	9	14	24
	40 代	47	33	36
	50 代	27	32	31
	60 代	4	8	2
	70 代	0	8	2
品物	食料品	86	78	84
	日用品	9	12	8
	ギフト券	5	10	8
贈る相手	上　司	44	38	35
	取引先	21	29	31
	親戚（両親）	20	23	13
	仲　人	8	4	2
	近　所	3	2	2
	友　人	3	4	9
	医　者	0	0	4
	お　寺	1	0	4

（2） 使用表現

使用した表現	東部	中部	西部
いつもお世話になっております/なりました	71	82	74
心ばかり（ほんの気持ち）ですが召し上がってください	15	4	6
お礼の気持ちです	7	1	2
いつもおかげさまでありがとうございます	3	8	8
御無沙汰してまして（しまして）	2	1	0
御中元です	0	0	4
（また）よろしくお願いします	0	3	2
おいしいから	1	0	0
変わりばえしませんが	0	0	1
何がいいかわかりませんでしたが	0	0	1
こんなもので失礼ですが	0	0	1
つまらないものですが、どうぞ	1	0	0
おかずにしてください	0	0	1

③　5 家庭の御中元受取時　調査結果…計 84 件の贈答品

使用された表現	件数
いつも（日頃）お世話になっております/ お世話になりました	53
心ばかりですが（ほんの気持ちですが）召し上がってください	13
いつものものですが（かわりばえしませんが）	8
いつもありがとうございます	8
これ、どうぞ	1
たいしたものじゃないですが	1

④　5 家庭と事業所 5 箇所　手土産受取時　調査結果…計 51 件の手土産
5 家庭（プライベートな付き合いにおける家庭訪問時の手土産）　32 件
5 事業所（取引先の訪問時の手土産持参）　19 件

使用された表現	件数
あの、これ、どうぞ	32
（持ってきた品名を入れる）ですけど、どうぞ	14
（差し出しながら）皆さんで召し上がってください	3
ありふれた（ありきたりの）ものですが	2

⑤　日本語を自然習得した外国人 ロールプレイ 結果…計 28 名

	使用した表現	人数
手土産	これ、(品名を入れる)ですが、どうぞ	15
	これ、どうぞ	6
	これ、(途中で)買ってきました	2
	これ、おいしいですから	2
	お好きだといいですけど	2
旅土産	お口に合うかどうかわかりませんが	1
	(場所名を入れる)に行ってきましたので	19
	(場所名)の名物(有名なもの)です	3
	これ、少しですが	3
	これ、おいしかったので(気に入ったので)	2
	きっと似合うとおもって	1

⑥　教科書と解説書の分析結果

⑥–(1)　教科書で「つまらないものですが」（以下「つ」）の提出されているもの 14 種類　（うち★2 種類は「つ」ではなく類似表現提出）

教科書名（提出ページ）	場面／対話	渡すもの	「つ」についての説明	
			渡すもの	相手との関係／状況「つ」使用理由
『中国からの帰国者のための生活日本語 II』（p. 143）	なし	なし	手土産など	「本当におそまつで」の説明書きに、同様の謙遜表現として挙げた（文化庁文化部国語課　1983, 143 頁）
Japanese for Everyone（p. 142）	Guest から host 国籍特定なし	手土産	gift	Japanese consider it good manners to speak of the thing being given in a deprecatory fashion（名柄ほか 1990, p. 142）
Situational Functional Japanese 3（p. 75）	なし	なし	gift	a formal situation most commonly used an expression of understatement.（筑波ランゲージグループ 1992, p. 75）
『日本語でビジネス会話中級編』（p. 55）と（p. 93）	日本人上司宅を外人部下訪問	旅土産 手土産	なし	なし
An Integrated Approach to Intermediate Japanese（p. 184）	日本人上司宅に部下の妻訪問	御歳暮	gift	The sprit of humbleness has always been valued in Japan.（三浦・花岡 1994, p. 184）
A course in Modern Japanese 2（p. 154）	先生宅を外人訪問	手土産	gift	the most common expressions used when offering a gift . . . should be done modestly.（名古屋大学日本語教育研究グループ 1983, p. 154）
An Introduction	大家に外人	旅土産	gift	frequently used when giving some-

to Advanced Spoken Japanese（p. 226）	訪問			one a figt . . . to express humbleness.（アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター 1987, p. 226）
Basic Functional Japanese（p. 93）	なし	なし	贈答品全般	日本の贈答習慣を解説。your friend に高級品を present する時、murmuring hesitantly「つ」（ペガサスランゲージサービス 1987, p. 93）
『実用ビジネス日本語』（p. 33）	なし	なし	贈り物	「謙遜する」の例として（TOP ランゲージサービス 1993, 33 頁）
Learn Japanese Vol. 3（p. 290）	上司宅を外人訪問	手土産	なし	なし
Japanese, the Spoken Language（Part 2）（p. 138）	女性宅を外人女性訪問	手土産	なし	the giver regularly belittles the value of the gift . . .（Jorden, 1987, p. 138）
An Introduction to Modern Japanese（p. 70）	日本人教師宅に日本人生徒が訪問	手土産	なし	one of the most common expressions when offering a gift（水谷・水谷 1977, p. 70）
★『文化初級日本語 II』（p. 19）	日本人宅を日本人が訪問（訪問のマナーとして）	手土産	なし	部屋に入ってから「お気に召さないかもしれませんが」「お口に合わないかもしれませんが」と言って渡す（文化外国語専門学校 1989, 19 頁）
★『留学生の日本語会話』（p. 92）	日本人が日本人に	誕生祝い	なし	「これ、たいしたものじゃないんだけど」（国際学友会日本語学校 1990, 92 頁）

⑥–(2)：解説書で「つまらないものですが」の提出されているもの 6 種類

How to be Polite in Japanese（p. 43）	「belittling gifts」の題で Politeness requires the Japanese to make some statement belittling the gift they are offering to others . . . This attitude of depreciating oneself is considered to be polite . . .（水谷・水谷 1987, p. 43）
Speak Japanese Naturally（p. 118–129）	題として使用し、会話例、文例あり an expression used when humbly offering someone to gift.（佐々木 1997, pp. 118–129）
『日本人の法則』（p. 80）	謙遜を美徳とする慣習／プレゼントをあげる時（長谷川 1998, 80 頁）
『ちょっとしたものの言い方』（p. 26）	手土産などを渡す時の挨拶。へりくだる（パキラハウス 1990, 26 頁）
『ケリーさんのすれちがい 100』（p. 206）	題として使用。日本では贈り物自体より贈る姿勢を問題にしている。（ケリー・カーティス 1990, 206 頁）
ビデオ講座日本語『日常生活にみる日本の文化』2 巻第 3 話	日本人宅を日本人が訪問する場面。手土産を渡す時に使用（氏家 1992）

⑥–(3): 教科書贈答場面で「つまらないものですが」が提出されていないもの 7 種類

教科書名	関係／状況	渡すもの	表現
Kimono（2）（p. 3）	生徒が先生宅訪問	旅土産	先生、おみやげです、どうぞ。（McBride, 1991, 3 頁）
『横山さんの日本語　(6)』（p. 8）	外人が日本人宅訪問	手土産	あの、これ、皆さんで召し上がってください。（日本語教育センター 1989, 8 頁）
An Integrated Approach to Interediate Japanese（p. 187）	日本人が外人に	旅土産	これ、京都で買ってきたからあげるよ。（三浦・花岡 1994, 187 頁）
『ヤンさんと日本の人々』（p. 6）と（p. 27）	外人が日本人大家に	引っ越しそば 旅土産	これは引っ越しそばです。どうぞ召し上がってください。（国際交流基金 1984, 6 頁） これ、おみやげです。（同 27 頁）
Japanese through Comics（p. 74）	日本人が外人宅に（返礼に）	餅	これ、どうぞ。（何ですか）おもちです。（Nagatomo & Stein, 1995, p. 74）
Interective Japanese（p. 120）	外人が日本人宅に	手土産	あのう、これ、どうぞ。（友田・メン 1996, 120 頁）
Communicative Japanese for Time Pressed People（p. 77）	外人が日本人宅に	手土産	これ、どうぞ。（茅野ほか 1992, 77 頁）